

## 躍り上がるような喜び

詩篇  
149  
篇

彼らに踊りをもつて主のみ名をほめたたえさせ、鼓と琴とをもつて主をほめ歌わせよ。(3)

ハレルヤ詩篇の四番目で、ここでも主の御名をほめたたえるべきことが勧められています。「主をほめたたえよ」との表現は、聖書協会共同訳などでは「ハレルヤ」と訳されています。本篇では「踊りをもつて主のみ名をほめたたえさせ」と語られています。旧約の時代、主の驚くべきみわざに接した信仰者たちは、その喜びを全身を使つて表現しました。神の箱を都に迎え入れたとき、ダビデは王衣を脱ぎ捨て、民衆に混じつて踊つたと記されています。神の恵みに心から感動した者たちは、躍り上がるようにしてその喜びを表現したのです。わたしたちが実際に踊るか否かは問題ではありません。礼拝において賛美をささげるとき、その心のうちに躍り上がるような喜びがあるかということです。主イエスがわたしたちを救うために十字架にかかつてくださったことの有り難さが本当に分かつたなら、澄ました顔をして賛美をささげることなど出来なくなってしまうのではないのでしょうか。わたしたちのために御子が人となつてこの世に来てくださったクリスマスの恵みの大きさが分かつたなら、天使たちと共に主を心から賛美せずにはおれなくなるのではないのでしょうか。クリスマスを喜び祝うこの朝、礼拝において心からの感謝と賛美を主にささげようではありませんか。それこそクリスマスにふさわしい祝い方です。